

安全な介護にゅーす



第6波「オミクロン株拡大」で施設が取り組むべきこと

－感染しやすく重症化しないウイルスへの対応－

■止まらない感染拡大への施設の対応は？

オミクロン株の感染拡大が止まらず感染防止対策の徹底が叫ばれている一方で、重症化・死亡リスクが低いことから、過剰な対策による社会機能の麻痺への対応が大きな課題となっています。入所施設においても、従来のウイルスの侵入防止対策の徹底だけでは感染対策は機能しなくなり、職員・利用者の感染を前提とした対策にシフトする必要があります。では、入所施設はどのように対応したら良いのでしょうか？

オミクロン株感染拡大への施設の対応では、濃厚接触者の待機により稼働職員数が減ることや、利用者の感染時に施設内治療を求められクラスターになるなど、従来と異なる問題が発生しています。どのように対応すべきかポイントをまとめましたので参考にして下さい。

施設へのウイルス侵入防止策だけでは不十分

●感染者未発生時の対策

■ポイント1：施設職員自身の飛沫感染防止策の徹底

感染者が地域に溢れる状況ですから、行動の自粛や3密回避では職員の感染は防げません。ウイルス飛沫をブロックする対策にシフトして、効率的・効果的な感染防止策に切り替えて下さい。

■ポイント2：3回目接種と未接種職員への接種徹底

職員はワクチン接種から経過期間が長く、感染予防効果が20%程度にまで低下しています。早期の3回目接種を徹底し、ワクチン未接種職員へは接種を再度強く要請して下さい。

■ポイント3：ワクチン未接種利用者への接種促進

第6波以降の終息移行期でも、未接種の利用者の感染時の重症化は大変重い課題になります。感染が防ぎ切れない現状を家族に伝え、未接種利用者を一人でも減らすようにして下さい。

■ポイント4：濃厚接触による職員待機の回避

職員が濃厚接触者になると10日間出勤できなくなり、人数が増えれば施設運営が危機に瀕します。職員が感染者に接触した時、濃厚接触者かどうか正しく判断して極力待機を回避して下さい。

■ポイント5：職員のブレイクスルー感染の早期発見

ワクチン接種済みの職員が感染した時、早期に発見して、接触した利用者への感染対策を行わなければなりません。自治体の無料PCR検査・抗原検査を活用し感染を早期に発見して下さい。

■ポイント6：職員から利用者への感染防止策の徹底

職員が感染していた時、少しでも利用者への感染を防ぐために、身体介護時の感染防止対策を徹底して下さい。特に「顔が密接しない介助方法」は重要です。

●感染者発生時の対策（職員の感染）

■ポイント7：職員の陽性判明時の即時対応

「接触箇所の一斉消毒」「接触者の確認」「接者のPCR検査・バイタルチェック」など、職員感染時の即時対応マニュアルに従って、施設内の感染拡大防止策を徹底して下さい。

■ポイント8：ワクチン未接種利用者のSPO2管理

ワクチン未接種利用者は、感染した時の重症化リスクが接種者の約3倍ですから、いつ感染し突然重症化するかわかりません。感染者が居なくなるまでSPO2管理を継続して下さい。

■ポイント9：低湿度地域の加湿&水分摂取対策

太平洋沿岸地域の異常に乾燥する地域では、居室やデイルームの加湿対策を徹底して下さい。また、可能な利用者へは頻繁な水分補給を行い、気道内のウイルスブロック対策を行って下さい。

■ポイント10：マスク選択・着用方法の再徹底

マスクの選択・着用方法で効果が大きく変わります。「不織布マスクの使用」「ノーズフィットによる密着」「上下に広く覆う」など、マスクの効果を100%活かせる着用方法を徹底して下さい。

●感染者発生時の対策（利用者の感染）

■ポイント11：重症化リスクの把握

ワクチン接種・未接種によって重症化リスクは異なりますし、基礎疾患によっても大きく異なります。利用者ごとのリスクを一覧表にして看護師が管理し、日常のケアの対応も変えて下さい。

■ポイント12：感染者の施設外隔離の要請

利用者感染判明時、地域の病床がひっ迫していると施設内療養を自治体から求められます。ワクチン未接種で重症化リスクが高い利用者が居ることを理由に、入院など施設外隔離を要請して下さい。

■ポイント13：無症状・軽症利用者の施設内治療

無症状・軽症を理由に施設内治療が決定した場合、医師の常時対応と感染管理認定看護師など、院内感染対策の専門家の派遣を要請して下さい。治療より感染拡大防止対応を優先しなければなりません。

■ポイント14：感染者の常時SPO2管理

無症状・軽症であっても突然重症化するかもしれません。重症化の兆候は自覚症状ではなく全てSPO2に現れます。SPO2が急激に低下したら病院搬送と決めて下さい。

■ポイント15：「隠れCOPD」の利用者に注意

慢性閉塞性肺疾患つまりCOPDの感染者の死亡率は通常の13.9倍ですが、95%の患者が未診断です。運動時の息切れ、慢性的な咳・痰・喘鳴がある利用者はCOPDかもしれません。

